



IBM Kenexa Employee Voice

継続的に従業員の声を聞き、分析し、
洞察を適切なアクションにつなげる

ハイライト

- 自社内で短期間にサーベイを作成、簡単に実施
- 継続的に従業員の声を聞き、分析するパルスサーベイで、洞察を業績向上につなげる
- 気になる部門に絞り込んだサーベイの実施で、問題を早期に発見
- クラウド・サービスとして提供されるため、PC・スマホの双方で利用可能

多くの企業のCHRO(最高人事責任者)は「従業員エンゲージメント」の重要性を認識しています。エンゲージメント調査は満足度にとどまらない、組織の成功への貢献に対する従業員の動機付け、主体性の度合いを測るものです。エンゲージメントと業績との相関関係はさまざまな調査で実証されており、従業員エンゲージメントが高い企業は業績も好調という傾向があります。すなわち、こうした良い傾向をいかに作り出すかが企業にとって課題となるのです。

エンゲージメントを重視するためには、まず従業員の声を吸い上げて現状を把握する手段が必要です。状態を可視化できれば、エンゲージメントが低下した時に迅速な対策を取ることができます。そのためのソリューションとして、IBMはIBM Kenexa Employee Voice(以下、Kenexa Employee Voice)を提供しています。

エンゲージメント調査の頻度を高め、 分析結果に基づく継続的な改善が可能に

従来のエンゲージメント調査は、専門のコンサルティング調査に依頼して、準備に時間をかけて、全社レベルで年1回程度行うのが一般的でした。Kenexaでも大規模調査用のクラウド・サービスとして「IBM Kenexa Survey Enterprise」が用意されています。この調査では、組織のパフォーマンスに影響を及ぼす重点領域を特定し、効果的なアクション計画の立案から実施までを行います。IBMに多数在籍する産業組織心理学者が膨大な知見をもとに、調査の設計から、取り組むべき行動計画までを支援します。

それに対してKenexa Employee Voiceは、特定のターゲットを対象に、より手軽に高頻度を実施して施策に役立てていただけるソリューションです。自社で実施可能な「セルフサービス・パルスサーベイ」と人材データ分析を行う「Talent Insights」という2つの機能を持ち、比較的短い準備期間で継続的に従業員の声を聞きます。そしてそれらのデータを集計・分析し、得られた洞察をエンゲージメントと業績の向上につなげていきます。人事部門担当者の簡単な操作で、設問の用意からレポートまでが可能で、気になる部門の状態を1カ月に1回サーベイするような場合に手軽に利用できます。



セルフサービスの意識調査と統合分析の2つの機能を提供

Kenexa Employee Voiceは、セルフサービス・パルスサーベイとTalent Insightsの2つの機能があります。

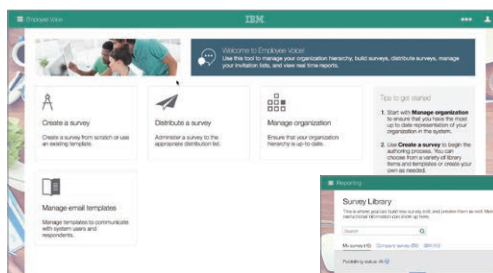
セルフサービス・パルスサーベイは、組織がより適切なタイミングで従業員の状況を把握し、スピーディーに彼らの問題に対応できるよう設計されたツールです。継続的かつイベントドリブンに活用することで、従業員の声に耳を傾け、ビジネスのパフォーマンスを改善するための示唆を得ることができます。

Talent Insightsには、自然言語処理が可能で、文章による分析命令を理解する「IBM Watson Analytics」を搭載し、サーベイのスコアだけでなく、全社や地域、職種別などで傾向分析を行い、グラフィカルに結果を表現。エンゲージメントを高めるためのさまざまな洞察を得られます。

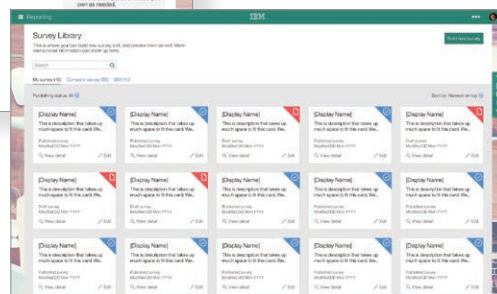
セルフサービス・パルスサーベイ

用意された設問でサーベイを迅速・効率的に作成

- サーベイを作成するためのSurvey Libraryには、あらかじめサーベイの設計・計画をガイドするためのコンテンツが多数用意されています。提供されている選択肢の中から、ひな形を選んで目的に応じたサーベイを設定できるほか、自前の設問を作成することも可能です。
- サーベイ作成時に約30言語がサポートされているIBM core content libraryから回答者が使う言語を選択しておけば、設問は回答者に合わせた言語で表示されます。

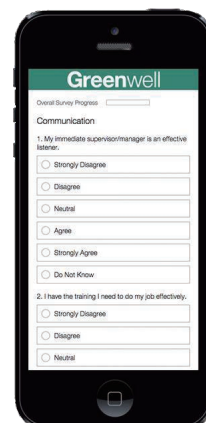


サーベイに必要な項目が並ぶトップページとサーベイ作成のためのSurvey Library



多様なデバイスで簡単に回答が可能

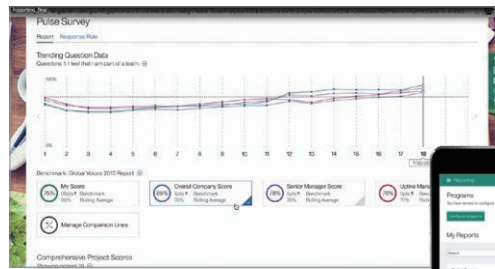
回答は、シンプルなインターフェースで、PCやスマートフォン、タブレットなど、多様なデバイスから行えるため、従業員に負担をかけずに実施することができます。



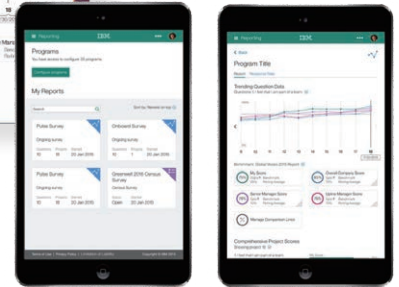
設問・回答画面例

結果はマネージャーにスピーディーにフィードバック

- マネージャーは、設問ごとにレポート画面が提供されるため、値の推移がわかりやすく、問題の早期発見が可能です。
- 自身の組織のスコアを、会社全体、上位組織、同じ設問に過去に回答した他社のベンチマークと比較することができます。その変化を見ることで、マネージャーはエンゲージメントを高めるための行動を起こすための洞察を得ることができます。



レポート画面例



Talent Insights

IBM Watson Analyticsを用いてハイレベルな分析も可能

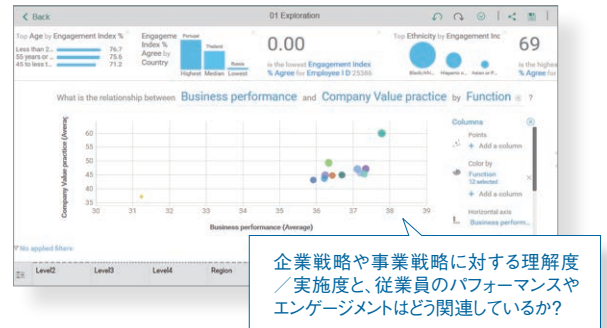
サーベイの回答を対象に多様な角度から分析を重ね、課題解決に向けたアプローチを紹介します。例えば、各種のエンゲージメント値が特に低い職種や地域などをグラフから特定し、改善策の実施や経過観察を行えます。

自社の戦略に対する理解度・実施度と従業員のパフォーマンスやエンゲージメントの関連性、相関を知ることができます。

分析例 結果を分析し、問題の解決を図る

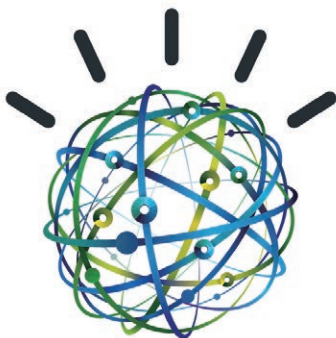


分析例 自社の戦略と従業員エンゲージメントの相関から洞察を得る



戦略の理解度・実践度に加え、アセスメントで計測されたリーダーシップの選考・リーダーシップ評価指標のスコアや集合研修での行動特性の発揮度もデータとして活用し、高い業績を上げるリーダーの特徴を掴むことができます。

分析例 高い業績を上げるリーダーを知る



変化をとらえタイムリーな施策を投入し、 ビジネスに好循環を

Employee Voiceを活用して毎月あるいは四半期毎など頻度を上げてエンゲージメント調査を行い、データを蓄積・分析することで、次のような効果が期待できます。

- 離職率の低下…優秀な人材の流出を防ぎます。
- 従業員の生産性向上…適切な人員配置が可能になり、同時に従業員の意欲を高め、時間外給与などのコストを削減します。
- 顧客満足度向上…従業員のモチベーション向上が、顧客満足度向上につながります。
- 店舗売上高増加…従業員の生産性向上やモチベーション向上が業績向上をもたらします。
- 不良品やリワークの減少…人的ミスを低減し、製造効率を高めます。など

ビジネススピードが非常に速くなる中で、従業員エンゲージメントに影響を与える事象が生じる頻度も高まっています。

年に一度調査を実施し、それに基づいた改革を行うのでは、実施途中で状況が変わることも十分起こり得ます。企業の成長のカギを握る従業員を惹きつけ、モチベーションと主体的な努力の意識を高めるためには、タイムリーかつ効果的な施策を講じる必要があります。

そのために従業員の声を聞き、分析し、洞察を適切なアクションにつなげる——そうした良い循環を作るために、是非、Employee Voiceをご活用ください。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2016

All Rights Reserved

10-16 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.comは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

このカタログに掲載されている情報は2016年10月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談ください。